

会長に就任して

一般社団法人 日本社会福祉学会
第6期（通算第27期）会長 金子 光一（東洋大学）

2018年5月27日に行われました2018年度社員総会およびその後の臨時理事会において、第6期（通算27期）の会長を仰せつかりました東洋大学の金子光一です。伝統ある日本社会福祉学会の歴代の会長は、実績も信望もあるそうそうたる先生方ばかりで、私のような者が就任することに、戸惑いと不安がありました。しかしながら、第6期の理事の先生方の協議によって、光栄にも選出して頂きましたので、謹んでお受けすることに致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

会長に就任させて頂き、個人的なことを含めて、日本社会福祉学会の「過去」「現在」「未来」について考えました。そのことについてここで述べさせて頂きます。

まず、「過去」のことですが、今から14年前の2004年、私の本務校の東洋大学で第52回全国大会が開催されました。そしてその大会の最終日の午後に企画されていたのが、「若手シンポジウム」と呼ばれるシンポジウムでした。テーマは「社会福祉の研究教育とこれからの課題 ―ミッションに基づいた『解体・復権・創造』に向けて―」というもので、シンポジストは、立教大学の湯澤直美先生、日本福祉大学の原田正樹先生、それから昨年亡くなられた大阪市立大学の岩間伸之先生でした。私はその時、コーディネーター兼シンポジストを務めました。私たちはそこで学会の果たすべき役割、研究者のあるべき姿について、かなり厳しいことを大胆に発言しました。そしてあれから14年の月日が経過しました。あの時若気の至りで主張していたことがどこまで改善されたか、まずきちんと検証する必要があると思っています。

私はその時、行政や大企業に対して言いたいことが言えない研究者、「御用学者」のような研究者を批判しました。今の時代、「産官学」の連携は必須であり、社会状況に対する認識の甘さを恥じるばかりです。ただ、やはり学会は学術団体ですので、行政や大企業と一定の距離をもって対峙し、言わなければならないことは明確に発信していくことも必要だと思えます。また、中堅、ベテランの研究者が分科会報告を行わなくなっている傾向に対して批判的な発言をしました。若手研究者は分科会という距離が近い空間で同じ領域の先学の研究者の報告が聞きたいものだと思います。私は第6期の理事の先生方に積極的に分科会で報告して頂くことをお願いしたいと思っています。現在、秋季大会の分科会の時間帯は、不測の事態に備えて理事は基本的に待機していますが、私はその状況をできる限り変えたいと考えています。

次に「現在」のことです。岩崎晋也前会長は、大きな実績をいくつも残されました。その一つとして、研究倫理に関する検討委員会を設置して、懸案であった研究倫理指針の見直しを実行されました。そして新たに「日本社会福祉学会研究倫理規程」「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」「学会発表に関する注意事項」を作成されました。また、大会のあり方検討委員会および若手・女性研究者に対する支援検討委員会においてアンケート調査を実施し、

どうあるべきかの議論の材料を提示してくださいました。さらに、国際学術交流促進委員会においては、三ヶ国調印を実現し、これまでの韓国に加え中国を含む三ヶ国の学術交流の途を開いてくださいました。私はそれら一つひとつが確実に施行されるよう努力する責任があると思っています。

最後に「未来」のことです。本学会は、将来に向けて、短期・中期・長期的な視点からこれからの活動を具体的に検討しなければならない時期に来ています。現在、学会が保有している余剰金は正味財産で1億円を超えています。全国大会、出版事業などの特別会計でもそれぞれ2,000万円ほどの繰越金があります。その余剰金をどのように計画的に活用するか、今後の大きな課題です。

まず、第5期に行われた調査等で明らかになった短期的な課題については、速やかに対応したいと思います。例えば、大会参加費の値下げなどはできる限り早く検討し、実施したいと思います。6年後の学会創設70周年記念事業に向けた取り組みなどは、中期的な課題といえます。アーカイブ化推進委員会などを中心に本学会の史資料を整理し、記念事業に向けた準備を少しずつ進めていきたいと思います。さらに、10年後を見据えた長期的な視点も重要だと考えます。例えば10年後、ICT等を活用した取り組みは今以上に盛んになっていることが予想されます。例えば、情報共有システムの発達によって、Web会議システムを使った大会シンポジウムをリアルタイムで自分のデバイスで見聞きできる時代になっているかもしれません。私は、本学会の活動計画を短期・中期・長期的視点からできる限り具体的な形で提示したいと考えています。

諸々の課題を抱えた状態の第6期ですが、経験豊富な理事の先生方にご協力頂きながら、何とか2年間重責を果たしたいと思っておりますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。